

令和3年度 学校評価結果

埼玉大学教育学部附属特別支援学校

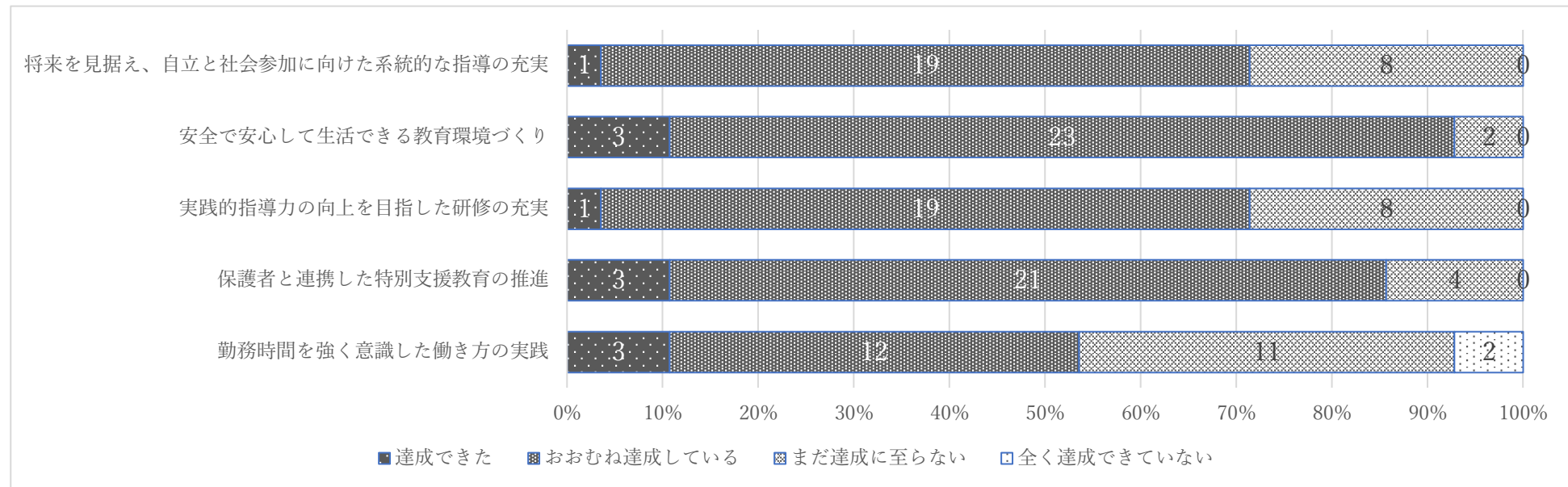
学校自己評価				保護者アンケート		学校関係者評価	次年度への改善策
評価項目	評価項目	目標達成度※	主な意見	評価項目	目標達成度※		
教育指導	将来を見据え、自立と社会参加に向けた系統的な指導の充実	C	各学部の教育はよいが、コロナの影響もあり学部間の交流や理解が進まず、授業や教育課程の系統性が見えにくくなっている。	学校は将来を見据え、わが子の自立と社会参加に向けた教育を行っている	A	この状況下でどの学部も効果的に教育活動に取り組んでいる。今日的課題に対しては学校としての明確な方針が重要である。	学校全体で教育課程の研修や研究を推進する。
教育環境	安全で安心して生活できる教育環境づくり	A	改修工事や施設修繕が進んでいる。コロナ対応について良い評価。ヒヤリハット報告、アレルギー対応の共有など教員間に安全意識の共有が進んでいるが、緊急時の対応力には不安がある。生徒を「さん」付けで呼ぶなど改善されているが言語環境をさらによくしていきたい。	校内に子どもたち一人一人が尊重され、学べる雰囲気がある	A	学校を見学した際、活気のある学習環境、安心で機能的な施設環境だと感じた。長年の施設老朽化に着手したことは素晴らしい。「さん」づけは平等感が伝わる。一人一人を大切にしようとする姿勢が貫かれ保護者にも感じられて嬉しい。	危機管理体制を見直し災害対策や事故防止への意識と対応力を高める。
			学校は安全、安心して教育ができる環境づくりに取り組んでいる	A			
専門性向上	実践的指導力の向上を目指した研修の充実	B	学校研究を通してオンラインを活用した大学教員との連携ができた。以前より研修の意識や機会が少ないとの声もある。	本校の教員は専門性向上に向けて努力している	A	専門性向上は重要。大学との連携をさらに深めてほしい。ICTのメリットを最大限に活用してほしい。	研修機会の活用、大学等との連携を推進する。
組織的推進	保護者と連携した特別支援教育の推進	B	保護者との共通理解はおおむね良い。下校時のサービス利用を開始するにあたり心配の声もある。	学校は家庭との連携を密に行っている	A	下校時サービス利用は家族や時代の変化の中ニーズを捉え寄り添っており素晴らしい。公民館との連携で地域への理解を図ることができた。	日々の実践を通して意識統一を図っていく。保護者との連携にICTを積極的に活用していく。
働き方	勤務時間を強く意識した働き方の実践	C	教員の意識の変化はあるが、さらに改善すべきとの意見も多数。業務の偏りの解消、さらなる業務削減などの改善意見。			仕事の精選は教育の充実に支障のない形で進めることが肝要。質の高い勤務の在り方を模索して。この状況下、よく努力している。少しずつ見直して改善を。	校務分掌等の組織的な業務の見直しを行う。

A…達成度9割以上 B…達成度7割以上 C…達成度5割以上 D…達成度3割以上 E…達成度3割未満 ※アンケートA評価とB評価の合計

令和3年度全体総括（案）

- 【教育指導】 オンライン環境の充実や分散実施などの工夫により、教育活動では縮小しながらも継続実施することができたが、他学部の教育が見えにくくなっている。
- 【教育環境】 コロナ対応やヒヤリハット報告など安全意識の共有が進んでいることが評価されているが、危機管理意識の強化も必要である。
- 【専門性向上】 ICT活用に取り組めた。大学教員との連携もオンラインを活用して進めることができた。次年度以降はニーズを意識した研究を充実させていく。
- 【組織的推進】 令和4年度より下校時のサービス利用を認める方針を打ち出した。保護者にも多様な考え方があり認めあえる雰囲気づくりをすすめる必要がある。
- 【働き方】 働き方の評価は低下している。意識改革やグループウェアを用いた効率化は進んでいるが、さらなる業務改善・削減を進めなければならない。

教員 アンケート結果



保護者アンケート結果

